



フィグ・ヤーパン通信

第31号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.31

発行日 2007年7月1日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

世界中のすべての政府およびその他の責任者へ

「ビリー」エドゥアルト・アルベルト・マイヤー

私はすでに1951年7月5日と1958年8月25日に世界中のすべての政府およびその他の責任者に宛てて、将来気候と人間とその行動形態に関連して地球上で起こり得ることについて警告を書き送った。そこで警告された予告は、近年恐るべき形で全面的に実現した。私の警告は、ヨーロッパと全世界の未来に対する予告として絶対的に確かな情報源に基づいていた。これらの予告は預言とはまったく関係ないものだった。なぜなら、それらは現実の未来に対する予見であり、果たして次のことが起こった。数年後にヨーロッパと世界中で人類の罪により気候条件が激しく変動した。温室効果の結果として気候が温暖化したために、あらゆる種類の異常気象が発生して、国土、家屋や建物、道路、山、鉄道、山地から平地の川、大河、湖などに恐るべき被害が生じた。世界中で凄まじい暴風や台風、竜巻やハリケーン、そして集中豪雨や大雪が引き起こされる一方で、旱魃、洪水、山崩れ、大規模な森林火災、地震や海底地震、津波、火山の噴火が起きた。しかもこれらすべてのことはこれからも続き、悪化の一途を辿るであろう。こうした気候変動や異常気象によってすでに何十万もの人間の命が奪われたが、今後さらに何百万という死者が出るであろう。なぜなら、これから気候温暖化や気候変動はさらに急速に激しさを増すだろうが、それはもはや止めることができないからである。私はすでに1950年代に次のように警

告した。「だがこれでおしまいというわけではない。なぜなら、新しい世紀が到来したら、環境を破壊する人間の狂気に対して自然はいっそう猛威をふるい、原初の地球を思わせるような規模に達するだろうからだ。」

すべての自然災害や気候変動に起因する将来の出来事を分析して考察してみると、この地球の未来は暗鬱な様相を呈する。今後生じる災厄や混沌、あらゆる種類の破局の原因は大部分、すなわち約75パーセントは地球の人間自身に原因があるのだが、このことを認める責任感のある者はまだごく少数にすぎない。始まりつつある破局はすでに顕著に認められ、現実的な人間の目には見えるようになっているにもかかわらず、いつでも病的なほど愚かで無責任な知ったかぶり屋、政治家、学者などがいて、それとは正反対のことを主張している。ましてや地球上に存在するあらゆる害悪の本当の原因を認識し、それに対して有効な手立てを講じることなど、まったく眼中にない。彼らは真理と現実の本当の要因を認識も理解もできないほど愚かなために、世界規模の出産停止または厳格な出産規制を設けることによって人口過剰を徹底的に押しえ込み、もしくは減少させるという、唯一有効で抜本的な措置も拒否するからである。

すべての政府、官庁、学者、その他の地球の責任者たち、そしてまた地球のすべての人間は、我々の

世界におけるあらゆる害悪と破局の根本原因が何であるかをいよいよはっきり認識すべきである。しかしこのことを理解して受け入れるには、健全な悟性のほかに健全な理性も働かせて、環境と世界の破壊を食い止めるために厳格で根本的な措置を緊急に講じることが必要である。さらに、あらゆる困窮と悲惨、疫病、犯罪と犯行、小児の性的搾取、さまざまな児童虐待、そして墮落の度を増しているあらゆる種類の売春を克服するためにも同じ理性を必要とする。同様のことは女性の抑圧と搾取、憎しみ、復讐欲と報復欲、宗教的・政治的な狂信主義と妄信、人種差別と外国人排斥、イデオロギーや国家の軍事テロ、そしてまた世界中の自然災害、急激に進行している気候温暖化と気候変動、大気汚染と環境破壊なども同様であり、これらすべてに対して対策を講じて実践しなければならない。が、それはあらゆる害悪の原因をなす害悪を認識し、抜本的な対策を講じて初めて有効である。しかし地球の上層部の責任者も、個々の人間も根本的な害悪を認識して、これと戦おうとはしない。このような拒否の主因は、人間が自由の概念を、自分の好きなことをやったり、やらせたりできることと履き違えていることにある。それによって失われるものに注意することはなく、自分自身の願望や欲望などを満たすというこの誤った自己決定の自由により、気候と世界は土台から揺さぶられ、徐々に、しかし確実に破壊されていることも気につけない。

あらゆる害悪と破局の根底にある害悪とは、人口過剰という要因である。なぜなら、人口過剰のみがすべての害悪、すなわち気候変動や環境破壊、人間のありとあらゆる変節、エネルギーや水の不足、その他すべての害悪の原因だからである。さらにますます公然と広がっている売春や犯罪、難民や亡命者問題、ネオナチ、その他すべての大小の問題も人口過剰から生じている。教皇やその他の無責任な愚か者が「生めよ、殖えよ、地に満ちよ」を支持するとき、それらの分子はイデオロギーか宗教がらみのテロリストや狂信主義者たちや、祖国のため、自称安全と自由、自称テロ撲滅のために人を殺し、軍隊や諜報機関を使って殺させたりする国家と戦争の犯罪人、別名国家権力者とその臣下と同類なのだ。実際、蔓延する人口過剰と、それが原因で人間だけでなく

自然や気候や惑星に起きている世界規模の害悪、解決不能な問題、激増する破局に鑑みると、出産を管理下で禁止して、相応の法律の規定に適用する場合に限って許可することなしに、出産を奨励するのは軽蔑すべき犯罪以外の何物でもない。それにもかかわらず生殖の狂気を煽り、ひたすらこれを支持し、あるいは責任ある部署で出産の狂気を決定的な法律で禁止しようとしないう無責任な連中は厳罰に処されるべきだ。このことは政府だけでなく個々の人間にも当てはまる。それは極端な措置で、個人の私生活に干渉するものであるかのように思える。このことは無理解な人間やエゴイストたちによって、プライバシーの領域の防衛という論拠で繰り返して主張されていることでもある。確かにある意味ではそうであるが、地球の世界が機能する惑星として維持され、地球人類が最終的に生き延びるためには、プライバシーの領域は厳格に管理された出産停止の前に放棄されなければならない。つまり純粋な理性と論理に基づいて、人類が生き延び惑星が機能し続けるために、プライバシーの領域のある一部は放棄されなければならない。好き勝手なことをやる権利を主張する利己主義も同様である。もし放棄されなければ、惑星地球が最終的に崩壊して、地球人類が没落するか、あるいはかろうじて露命をつなぐことになるのが時間の問題であることは今日すでに予見できる。それゆえ、すべての個人はあらゆる点で責任を自覚し、生殖に関してもプライバシーの領域の権利を制限することが必要なのである。

何らかの問題に着手して解決策を作り出しても、それができ上がったときにはすでに時代遅れで役に立たない。なぜなら、それらの解決策が最終プロジェクトとして練り上げられている間に、すでに時代遅れとなり、ほとんど使い物にならないからである。その理由は、企画してから最終成果が出るまでの間に地球の人口はまたも数百万人増えているためである。したがって問題を緩和するために策定された成果は、すでに恐ろしく時代遅れとなっており、再び新しいプロジェクトを必要とする。こうして問題は拡大しながら際限なく続いていく。それは穴を新しい穴で塞ごうとするようなもので、1つの問題を解決しようとして2つの問題を生み出すに等しい。人口過剰およびその他すべての害悪に対して、冷静

で抜本的な措置を講じなければならない。世界支配の欲望に駆られた国家権力者の策謀に対しても同様である。彼らは世界中で戦争を引き起こし、自ら戦争を遂行し、他の諸国を混沌とした状態に陥れ、それらのメンタリティーや宗教や政治を根絶しようと企んでいる。人類はものすごい勢いで増えているために、あらゆる種類の必要の増大に対処するために、ますます頻繁かつ大規模に地球を搾取して破壊することを強られる。それによって自然と全環境はますます巻き添えにされて破壊される。それが長い間には気候にも壊滅的な影響を及ぼすようになるのは自明である。惑星自体が罰せられているのだ。なぜなら、原爆などの爆発が地球の構造を乱して地震を誘発するからである。水域や自然、大気や大気圏が汚染され、原生林は利潤欲のために破壊されて根絶やしにされ、地球資源が無責任に搾取されているのである。

現代と未来にとって急務は、人口過剰の狂気に徹底的に歯止めをかけることである。しかしそれは、管理された出産停止に関する厳格な措置を世界的な規模で取ることによってしか可能ではない。問題を徹底的に解明することによって抜本的な対策を講じなければならない。それによると、子孫を作ることができるのは、社会や人間の秩序が保たれ、人間の尊厳、社会制度、そして社会、人類、惑星、環境および個々の人間の社会的規範と安全などを脅かす要因が予想されない場合に限られる。

つまり世界的な規模で管理された出産停止により、世界の人口を妥当な水準にまで減らさなければならない。なぜなら、そうすることによってのみ増

大し続ける必要とそれに伴う破壊を最終的に防ぐことが可能だからである。自然の法則によれば地球の人口は、5億2900万人を上回るべきではない。この数の人間に対しては惑星からの供給がありあまるほど保障されているからである。この数が3倍に増えて16億人になったとしても、惑星とその自然にとって受け入れられ、何とかなるであろうが、それ以上は無理である。もはや時間はないので、早急に行動を起さなければならない。そしてそれは君たちの責任である。政府やその他の責任ある役職についている者たちの責任である。あるいは科学者として活動し、未来、生命、そして全世界を再び正常に戻すために何をする必要があるかを知っている者たちの責任である。だが正常に戻るまでには非常に長い時間、たとえば数百年かかるであろう。しかもそれはまだ間に合う、近いうちに上に述べた必要な措置を講じて実施されることが必ず前提となっている。君たちの責任者は今すぐ行動を起さなければならない。もう時間はない。今や悟性と理性と論理を駆使して新しい出発をしなければならない。さもないと最終的な破局が避けられないであろう。この警告を君たちの後継者にも伝えよ。彼らも君たちや、地球のすべての個人と同じく、国と地球、存続しているすべてのもの、そして人間によって創り出されたものを大切に守り、健全で明るい未来に伝えるために必要な行動を起す義務があるからだ。これには人間が獲得した財産、全自然、惑星とその気候、そしてすべての人間と地球上に生息するすべての動物の肉体と生命も含まれる。

(出典：FIGU-SONDER-BULLETIN Nr. 36 2007)

— UFO 地球外からやってきた宇宙船 —

私のUFO写真

人々は私のUFO写真を見ると、ビームシップが非常に鮮明に写っているので必ず驚く。これは世界中で作られた非常に多くのUFO写真と異なる。それらの一部は合成写真やそれに類するものだが、幸いなことにそれらの多くは見破ることができる。私の写真はクオリティーが非常に高いので、いろいろな人間が敵対心を抱き、本物にしては良すぎると主

張する。そのためにたとえばMUFONやカール・コルフは、アンダーグラウンド・ビデオまで使って誹謗中傷をしている。彼らは私と私のミッションを破壊するために、あらゆる手段で私に嘘と詐欺の濡れ衣を着せ、嘘で固めた詐欺ビデオを製作しているのだ。しかし私の鮮明な撮影は私だけの功績ではない。なぜなら私は写真やビデオにかけてまったくの素人で、そういった加工について何も知らないも同然だ

からである。が、カメラのファインダーの中に見えるものをフィルムにおさめ、対象をそれがあがままに見せることは手品でもなんでもない。私の撮影もまさにそうであった。つまり、たいていの場合、ビームシップは鮮明な写真を撮るのに非常に適した位置に向けられたのだ。それによってついに地球外のまったく物質的な飛行体が本当に存在することを証明する、良質の写真資料が得られたのである。また私に撮影が許されたのもこの目的のためにほかならない。これについてプレアデス星団のセミナーゼは次のように説明した。

1975年1月28日 第1回会見

セミナーゼの説明

17. この事実を証明するために、私たちはあなたにビームシップの鮮明な写真を撮る機会を与えたのです。

18. 今後さらに良質で鮮明な証拠写真を撮る機会があなたに与えられるでしょう。

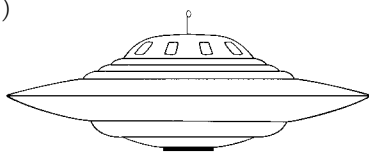


撮影日：1975年7月9日

撮影時刻：15:09

場所：フクスビュール・ホーフハルデン、オーバーバルム近郊、ウェッツィコーン/チューリヒ、スイス

飛行物体：高さ28mのモミの老木の周囲でデモンストレーション飛行を行うセミナーゼのビームシップ（この木は後にセミナーゼによって跡形もなく除去された。）



ビームシップ2型

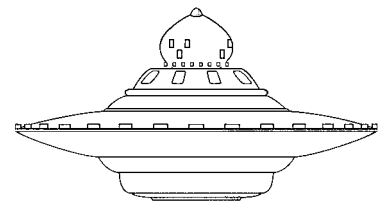


撮影日：1976年3月29日

撮影時刻：18:05

場所：ハーゼンベル・ランゲンベルク・オブ・フィッシェンタール

飛行物体：1976年のセミナーゼの最新のビームシップのデモンストレーション飛行。以前のシップに比べてドームおよびクラウンが高くなっているなど、変わっている点が幾つかある。この新しい構造により、シップはタイムトラベルをしたり、他の宇宙や別の次元に進入したりすることが技術的に可能となった。



ビームシップ3型

地球外生命体の人間性

これについて私自身何を言うべきか。私はかねてより地球外の人間が我々地球人と同じであることを知っている。彼らも我々とまったく同じように誤りを犯し、願望や夢を抱き、害悪とも無縁ではない。多くの地球外生命体はいろいろな点で我々より勝っているが、彼らも我々と同じく人間なのである。これについてはセミナーゼの言葉も聞こう。

1975年1月28日 第1回会見

19. 地球人は私たちのことを「地球外生命」とか「異星人」とか、好き勝手な名称で呼んでいます。

20. 地球人は私たちについて現実離れたことをでっちあげていますが、私たちのことを少しも知らないのです。

21. 実際のところ、私たちは地球人と同じように人間なのです。ただ、私たちが知識や知恵の面で、また技術的な点においても地球人よりはるかに勝っているだけのことです。

なぜ異星人は地球に来て我々と連絡を取るのか。またなぜ彼らはそれを秘密裏に行い、公然と登場しないのか？

この質問に対しては全体として関連する幾つかの答えが与えられた。セミナーの答えは次のような内容のものであった。

1975年2月8日 第3回会見

18. 地球上の政府は例外なく権力欲と金銭欲に凝り固まった人間で占められていますからね。
19. 彼らは平和と友好という美名に隠れて、この地球を完全に制覇するために、私たちのビームシップを捕獲しようとするでしょう。
20. しかも彼らは節度を知らないのです、宇宙をも征服しようとするでしょう。
21. でも、地球上では国家間の平和と友好さえ築くことができないのですよ。それどころか自国内の人間の間でさえまならないのに。
22. 私たちのビームシップや様々な付属装置を入手したとしても、このようなパワー装置をどうやって操作するつもりかしら！
23. だから私たちには公衆の前に登場することに全然興味ありません。
24. 彼らの意識はまだ極めて低く、宗教の奴隷状態どれいに置かれています。
25. もし私たちが登場したら、地球人は太古の時代

と同じように私たちのことを近視眼的に神と崇めるでしょう。その一方で、私たちのビームシップを奪おうとする犯罪者や権力の亡者もたくさん出てくるでしょうね。

26. しかし忘れてならないのは、幾百万もの人々が完全なヒステリー状態に陥り、意識障害を起こすだろうということです。

27. これらの理由から、当分の間は何人かの地球人とだけ接触を維持し、彼らを通して私たちの存在や任務について一般に知らせ、将来起こるべきことに対して心構えをさせるのが賢明のようです。

28. 私たちは地球人の番人でもなければ庇護者でもありません。私たちの祖先は地球人の祖先でもあるので、地球人に対して義務を感じているだけなのです。その昔、何人かの権力亡者が自ら破局を招いた結果、私たちの祖先は地球を逃れてプレアデス星へと脱出したのです。それは、あなたが過去何十年もかかって、すべての知識を総動員して推測したことと寸分違いません。

これは説明の一部にすぎない。すでに述べたとおり、このほかの説明も存在しているからである。しかしそれらは互いに関連して全体像を形成している。



(出典：UFOs Raumschiffe von fremden Welten)

スイス訪問取材日記 (2007年5月3日～6日)

近内 徹 ・ 木下 治

5月3日成田空港10時半ごろ、前日までの準備などで疲れも残っているが天気は晴れで、期待感と少しの不安を抱えながら無事離陸。約12時間のフライトで現地時間3日の15時半ごろ、無事にチューリヒ空港到着。日本からはずっと太陽を追いかける形になるので、昼間の時間が長いが特に時差ぼけ

にはならなかった。シュテファン、シモーネ夫妻が車で迎えに来てくれる。久々の再会で挨拶を交わし、私たちが宿泊先のフライホフまで案内してくれる。約30分間の道のりで、私たちは車窓から初めて見るスイスの光景に見惚れる。シュテファンたちが英語でいろいろと説明などしてくれるが私たちは英会

話もどうにか通じるレベルなので理解するのも苦労する。スイスの高速道路は広く途中の渋滞もなくて順調に流れる。

周りは徐々に田舎の光景に変わっていき、峠道を上っていく。スイスも日本同様今年は暖冬で、例年ならまだ雪が残っているとのことだが、薄着でも寒くないぐらいの温暖な気候であった。車が止まったのでどうやらフライホフに着いたらしい。建物も周りの景色も空気もどれも素晴らしく澄み切った感じがする。私たちが部屋まで案内してくれチェックイン。周囲から羊の鳴き声が響き渡る。窓を眺めるとすぐ後ろは牧草地で羊や牛が飼われていた。荷物などの整理を終え、一息したところでシュテファンたちは私たちがセンターまで案内してくれる。フライホフとセンターは近いとは聞いていたが本当に目と鼻の先という感じがした。



初めて見るセンターの第一印象は思っていたより小ぢんまりとしていて質素な感じがした。この日は晴れていた。平日の日中ということもありメンバーはあまりいなかった。最初に奥の部屋（台所のような部屋）でエバさんとセリーナさん、買い物などをして来たシルバーノさんに会う。そこに突然（我々がそう思っただけであるが）ビリーがやって来たので驚く。軽く挨拶と握手を交わす。センターで軽く夕食をいただき、私たちはフライホフまで歩いて帰る。スイスはサマータイムで日も長く21時でも空はうっすらと明るかった。周りは静かで夜はぐっすり眠れる。

翌4日朝は曇りで6時前に目が覚めたので、フライホフの周りを散策してみる。牧草地や野原、野草や花がたくさんあり癒される。フライホフで朝食後、これからのスケジュールなどの打ち合わせをする。昼前にビデオカメラを回しながらセンターに向かう。途中シルバーノさんがトラクターなどで庭の

作業をしていた。センターで昼食をいただいたあと通訳のシュトラッサー氏と会う。これからは通訳者がいてくれると思うと心強くなる。この日の午後はマデリーンさんがセンターの施設や内外を説明してくれる。その模様をシュトラッサー氏の通訳も交えてビデオに収録する。

センターの手前にある建物に平和瞑想をする部屋があるとのことなので中に案内してもらおう。意外と狭い部屋で真ん中に大きなピラミッドが居座っている。ピラミッドの周りにはたくさんの椅子が置いてあり、瞑想者は自分の体形に合わせて作られた各自のそれに座り、瞑想をするとの説明がある。



外の庭の案内で印象的だったのは、セミヤーゼの記念の木（レーザー光線で幹を貫通させた木）を見せてくれたことである。かなりの年数が経っているので穴の中にごみなどが詰まっていたが、マデリーンさんが取り除き奥まで見えるようにしてくれる。私たちが覗いてみると本当に穴が開いており、向こう側の光が見えた。これもビデオに収録する。その他センター内外を全体的に案内してもらった。



(次号に続く)

フィグ・ヤープンからのお知らせ

□ 第9回 全国読者集会のお知らせ □

フィグ・ヤープンでは、2007年度全国読者集会の開催に向けて準備を進めています。今年度で第9回目となった全国読者集会では、『心』（水瓶座時代出版刊）の出版を記念した懇談会を開催します。さらに当日会場では、新刊書『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録（4）』（水瓶座時代出版刊）を先行販売する予定です。今秋は2冊の新刊書の出版を予定しており、読者集会にていち早く披露する予定です。

日 程

開催日 2007年11月23日（金）

会 場 日本青年館会議室

東京都新宿区霞岳町15番地

電話 03(3401)0101

JR総武線 信濃町駅または
千駄ヶ谷駅より徒歩9分

プログラム

13:00 開 会

13:00 フィグ・ヤープン活動報告

会計報告

出版報告と今後の計画

公式ホームページ

13:30 スイス訪問取材報告

15:00 コンタクト記録からの抜粋報告

15:30 閉 会

(16:00～17:30 懇親会)

参加料

全国読者集会のみ 300円

全国読者集会と懇親会 2,300円

(参加料は当日徴収いたします。)

読者集会はどなたでも参加できますので、どうぞ奮ってご参加ください。参加を希望される方は、フィグ・ヤープンまで、葉書またはFAXにて、氏名、住所を添えてお申し込みください。申し込み締め切りは、10月31日です。

□ これから出る本 □

コンタクトシリーズ4作目となる、『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録（4）』、人間の精神的な機能について霊的な側面からも詳しく解説されている『心』について、水瓶座時代出版より、今秋出版予定です。11月の全国読者集会開催までには発売開始のご案内を差し上げる予定ですので、どうぞご期待ください。

ビリーが高次の霊水準からのインスピレーションを受けて記した『アラハト・アテルザータ』につきましては、来年の出版となります。現在、内容につきまして内部校正作業を実施中です。また、徳間書店から出版されていた『宇宙の深遠より 一地球外知的生命プレアデスとのコンタクト』につきましても、水瓶座時代出版からの改訂版出版に向けて、準備が進められています。出版予定の書籍類が複数あり、作業が平行して進められています。秋以降に続々と出版を予定しておりますので、ご期待いただきますと同時に、ご支援くださいますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

□ 読者訪問日を開設しました □

フィグ・ヤープンでは、読者の皆様とフィグ・ヤープンのスタッフが対話する機会をつくるため、「読者訪問日」を開設しました。フィグの活動や書籍の内容など、フィグに関することであれば、お話になりたいことは読者の皆様に自由にお決めいただけます。会談は、フィグ・ヤープン事務所（奇数月の第3日曜日のみ）または、都合の良い場所にて実施します。ご希望の方は、住所、氏名、連絡先電話番号を添えて、フィグ・ヤープン事務所まで郵送またはFAXにてお申し込みください。その際に、希望の場所とお話になりたいことについてもお知らせください。

なお、読者訪問日はすべて無料で実施され、フィグ・ヤープンによる書籍の販売等を含む勧誘行為等を目的としたものではありません。また、フィグ・ヤープンでは、個人の悩み事相談等は行っておりません。申し込みいただいた内容によっては、ご希望に添えないことがあります。

出版物のご案内

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)

価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)

価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(3)

価格 2,000 円 (税込 送料別 335 グラム)

■瞑想入門

価格 3,200 円 (税込 送料別 815 グラム)

■わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)

価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)

■宇宙の深遠より 一地球外知的生命プレアデスとのコンタクト (徳間書店刊)

価格 2,940 円 (税込 送料別 550 グラム)

■生命の哲学

価格 1,000 円 (税込 送料別 150 グラム)

■日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)

87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)

■第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■日本語版 FIGU 公報

6 号 価格 500 円 (税込 送料別 90 グラム)

30 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)

38 号 価格 500 円 (税込 送料別 160 グラム)

■精神と物質の生命

価格 500 円 (税込 送料別 55 グラム)

■ビリーの少年時代の著作

価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)

■預言者エレミヤとエリヤの予告

価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)

■エノクの預言

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■『瞑想入門』の手引き

価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)

■地球に平和あれ

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■FIGUの原則あるいは人間の原則

価格 300 円 (税込 送料別 40 グラム)

※このページに掲載した以外にも多数の書籍があります。ホームページ等をご覧いただくか、フィグ・ヤーパンまでお問い合わせください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※4,000 円 (税込) 以上お買い上げの場合、郵送料は無料です。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 31 号 (無料)

発行日 2007 年 7 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 042(635)3741

FAX 042(637)1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail info@jp.figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複製を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2007 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.